

ホーチミンシティ クロニクル HCMC Chronicle

2025.10.01

ホーチミン日本人学校
川上 裕明

バランス感覚

ホーチミンに赴任し半年、なんだか焦ります。

というわけで(……)、今回は「ベトナムの人のバランス感覚」についてです。



私を含めベトナムを初めて訪れた人に印象的なのが「バイクの多さ」ではないかと思います。「数年前と比べると自動車が増えてバイクが減った」と言う人もいますが、市街地でも郊外でもバイクは多く、生活になくてはならない必需品です。そしてみんな運転が上手。



ベトナムの道路交通法では、3人乗りは合法(同乗は12歳未満の子ども、高齢者、救護の場合に限定)ですが4人乗りは認められていません。路上では4人乗りはもちろん5人乗りも見かけるものの、それを警察官が注意している様子はありません。また、道路が渋滞していると上の写真のようにバイクが歩道に上がって走ることも多いです。もちろん125ccバイクに4人乗りは重たいでしょうし、歩道には歩行者もいればバス停もあるのでスクーターには厳しい環境(!!)でしょうが、乗りこなすベトナムライダーのテクニックは超絶です。

また、たいていのものをバイクで運んでしまうベトナムの人、時々目を疑うような光景に出くわすことがあります。





みんな子どもの頃から親の運転するバイクの後ろ(あるいは前)(あるいは間)に乗って、バランス感覚とインナーマッスルが鍛えられているのでしょう。さすがのたくましさです。

バランス感覚といえば、こんな姿もよく見かけます。



さすがのバランス。日本なら車のシートをリクライニングさせて休憩する、あの感じでしょうか。バイクのメインスタンドはかかっているのですが、その上でよく寝ていられるものだと感心します。

私もオートバイが大好きなのですが、ホーチミンの交通サバイバルの中では自分で運転しようという気になれません(ホーチミン日本人学校では、自動車やバイクの運転、バイクの同乗は禁じています)。ホーチミンではバイクは生活の一部、私は今日も街のバイクの技術とかけひき(?)を見ながら楽しもうと思います。



バランスといえば、「栄養バランス」も。



ベトナムで麺類を注文すると、いつも自動的に山盛り野菜が付いてきます。左からボーコー(ビーフシチューのようなスープ)、学校そばのフォー、家の近くのフォーで、どこもこんな感じです。

右は、学校そばの路面店で、片言ベトナム語で「飯ト肉ヲクダサイ」と言ったら出してくれた謎のメニュー。照り焼き鶏肉(剣淵の「ごとうのとりくんせい」並に固い)、青菜スープ、ご飯の上にはゆでキャベツがのっています。値段30,000ドン(170円)。単身男性にはうれしい限り。

